

台風第20号から第25号までは、すべて本邦には直接の影響を与えなかった。第20号 (Hester) は、四国沖まで北西進して来たが、ここで、消滅、第21号 (Judy) 第24号 (Mamie)、第25号 (Nina) はいずれも本邦の東方洋上を北東に進んだ。また第22号 (Kit) 第23号 (Lola) はいずれも西進してフィリピンを横断し、南支那海を通り、インドシナに上陸して消滅した。最低気圧は第22号は 970mb (10月6日)、第23号は 975mb (10月12日) を示し、フィリピンには多大の被害を与えた模様である。

5. 川畑氏渡米

本学会会員、気象庁観測部長、川畑幸夫氏は「津波警報業務協定締結に資するための事前業務打合せ」のため10月31日から11月19日まで、ホノルル、ワシントンに出張された。

6. 和達氏、今井氏渡米

本学会理事の気象庁長官 和達清夫氏は科学技術会員の資格で、本学会理事、気象研究所台風研究部長今井一郎氏や建設省の土木研究所長ら2、3名の人と共に、調査団長として、11月16日から11月30日まで、シカゴ、トロント(カナダ)、ワシントン、マイアミ、ニューホルリング、ロス・アンゼルス等で各国の防災に関する施設および研究状況を視察された。

1682	山 川 弘	//	B
1683	山 本 純 一	//	B
1684	清 水 喜 允	//	B
1685	山 本 昇	//	A
1686	森 秀 雄	//	A
1687	土 屋 喬	//	B
1688	沢 本 弘 志	//	B
1689	山 岸 照 幸	//	B
1690	島 村 泰 正	//	B
1691	藤 井 和 敏	//	B
1692	島 村 克	//	A
1693	野 村 正 徳	//	B
1694	古 川 武 彦	//	A
1695	山 中 正 行	福岡管区区	A
1696	土 屋 正 一	米沢気象通	A
1697	根 津 健 二 郎	//	A
1698	吉 田 茂	東京理科大学	B
1699	箕 輪 年 雄	横浜気象台	A
1700	杉 本 文 男	//	A
1701	松 永 隆	鹿児島気象台	A
1702	原之園 利 行	//	A
1703	少 山 千 万 樹	医科歯科大学	A
1704	信 藤 俊 三	片山病院, 外科医	A

中国気象学会への公開要望書について

さきに発足した国際学術交流委員会の提唱で、日本気象学会は、日中気象学会の学術交流を促進させるため次のような公開要望書を中国気象学会に送りました。

日気学第 556 号
昭和35年10月18日

中国気象学会長 殿

日本気象学会理事長
正 野 重 方

日中気象界の学術交流について

日本気象学会は、貴国気象学会との学術交流について、過去も現在も特別に深い関心を持ち続けています。1956年6月より貴国の気象観測結果を入手できるようになり、気象学の研究及び気象業務を遂行する上にはかり知れないものをもたらしてくれましたことは、我々日本の気象研究者及び技術者及び技術者にとって大きな喜びであります。

日本気象界と中国気象界との人的交流は、1954年10月、和達清夫気象庁長官が貴国に招待されたことによつて始められました。続いて1957年2月、貴国の徐長望気象局長、趙九章地球物理研究所長の来日は、日中両気象界の交流を深める機運を一層高めてくれました。続けて1957年6月、佐貫亦男、岸保勘三郎、毛利茂男の三氏が再び貴国に招待され、日中気象界のむすびつきは更に深いものとなりました。

その後の日中の気象界の交流については、残念ながら満足すべき状態が続いたとは言えません。しかし、我々日本気象学会員は日中気象界の交流を盛んにすることについてはたえず深い関心を持って来ました。

日本気象学会では、現在のような不自然な日中気象界の現状を打破するために、「国際学術交流委員会」を設け、この委員会を中心にして、種々の運動を進めることになりました。現在、この委員会では、

- (1) 日中気象界の人的交流の促進
- (2) 日中気象界の学術的交流

の二点に主眼をおいて計画をたてています。

前者については、幸いにも11月中旬、日中友好協会から貴国に学術代表団を派遣するよう貴国から招待がありましたので、日本気象学会では、会員、神山恵三氏及び松本誠一氏を代表団員に推せんしました。彼等が学術代表団に加わり、貴国訪問が出来るよう努力した結果、幸いにも神山恵三氏が代表団員に加わることになりました。今後、日中気象界の人的交流の第一歩となれば幸いですと思っております。

また後者については、学術文献の交換以外に、アジア地区共通の気象学上の諸問題を活発に討論したいと思っております。その具体案として、日本気象学会では、機関紙を

活用したいと考えています。さしあたり、日中両気象界の共通関心事である。(1)梅雨、(2)農業気象などの問題について当学会会員の討論を行い、その要旨を機関紙「天気」に掲載し貴国の関係者と紙上討論を行ないたいと思っております。貴国気象学会でも、我々の趣旨に御賛同下され、この試みに協力していただければ幸いです。

なお日中気象界の交流について、貴学会の具体的計画をお知らせできれば幸いです。

交流についての連絡先は次の通りです。

日本気象学会

「国際学術交流委員会」

終りに今までに寄せられた貴国気象関係者の絶えざる絶大な御努力と御援助に対し衷心からかさねて感謝する次第です。

中国訪問への出発に際して

神山恵三

このたび中国科学院の招待により、日中学術代表団の一員として中国を訪問することになりました。

学術代表団は自然科学部門として物理・気象・生物・地質より5名、社会科学部門として中国学、経済、法律より5名、団長(学術会議会員、福島要一氏)1名より構成されています。

気象学会、全気象職員組合より推せん絶大なる支援

を載いたことを紙上をかりて厚く御礼申し上げます。私達の今回の訪問が今後のもっと大きな両国の親善と友好の一つのいしずえとなれますように努力いたします。

なお、中国気象学会長あての理事長よりの書かん(別項)が出され、また、下記のような全気象職組より中国気象台労働者への声明をおあずかりいたしました。

中国気象労働者のみなさんへ

全国気象職員組合は第4回定期大会の名において、中華人民共和国の気象業務に従事する労働者のみなさんにあいさつを送ります。

中国、ソ連その他のアジア諸国への侵略を企図し、わが国の軍事体制の強化をもたす新安保条約に反対して、われわれははげしい闘いを行ないました。不幸にして、この条約は締結されましたが、アイゼンハウアーの訪日を阻止し、岸政府を崩壊させて、米日反動勢力に大きな打撃を与え、日本人民の統一行動を質的に高めました。

この安保闘争において貴国人民がしめされた絶大な支援闘争は忘れることができないし、今後のわれわれの闘争への大きな勇気づけとなっています。

この、安保条約を強行した米日反勢力は、中国を敵視し、台湾を中国から切り離して中国が二つあるような陰

謀をたくらみ、あるいは日中両国関係の正常化を妨害する政策をひきつづいてとっています。このため、有史以来近隣関係にある貴国との国交が、未だに開かれていません。

国交が開かれていないにもかかわらず、1954年以来、貴国は気象庁長官和達清夫氏を初め、佐貫亦男、岸保勘三郎、毛利茂男各氏をあたたく迎え、また貴国気象局長 除長望氏、地球物理研究所長 趙九章氏の訪日を実現し、その際、金門、馬祖においてアメリカ帝国主義による侵略の企図があったにもかかわらず、また、行政協定により日本の気象業務が米軍に提供されるという状況にあったにもかかわらず、貴国はわれわれ気象界の要望を入れて、気象庁長官に気象資料を提供してくれました。今回はまた、日中友好協会学術代表団の一員として神山恵三氏を招待して下さいました。